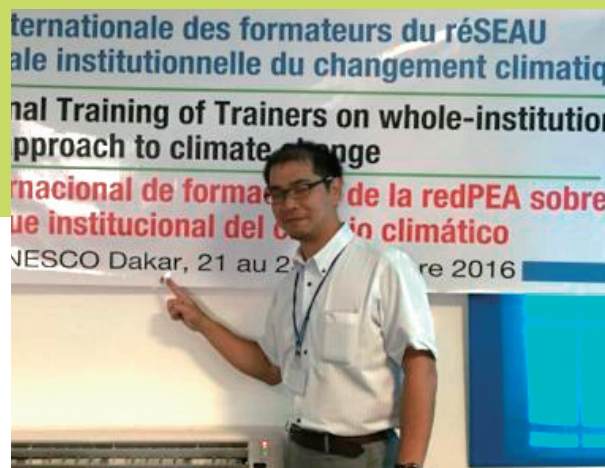


サステナブルスクールの先生に 会いに行こう！

Vol.1

サステナブルスクールには、子どもたちとともに持続可能な未来に向けて行動する先生の存在が欠かせません。学校自体の変革にも先生方の存在が大きく関わっています。そんなサステナブルスクールの先生へ、今回根掘り葉掘りいろんなことを聞いてみました。先生方の原動力はどこからきているのでしょうか？



お名前 黒宮祥男 (クロミヤ サチオ)
学校名 名古屋国際中学校・高等学校
学校での役割
社会科主任・教務主任・国際教育推進委員
(Sus-Teen!担当)・ホッケー部顧問

先生になった理由を教えてください。

先生という名のつく職業は、少なからず人の人生を左右する仕事です。もともと歴史上の人物がどのような場面に直面し、どのような決断をし、どのような結果を残したかという人の生き方に興味をもっていました。そうした人の人生を学んでいるうちに、多感な時期を過ごす

中学生・高校生に対して、自分はどのようなことをすることができるか、生徒たちがどのような人生を歩んでいくかを知りたいというのがきっかけだったのかもしれませんが。

名古屋国際中学校・高等学校とESDとの出会いを教えてください。

名古屋国際中学校・高等学校は、グローバルな視点に立ち教育活動をおこなっています。ESDとの出会いは、その方針の中でユネスコスクールへの加盟したことが

最大のきっかけでした。ユネスコスクールへの加盟後、ESDの理念や実践など急速に校内へ学習が広がったと感じます。

黒宮先生とESDとの出会いについても教えてください。

明確にはユネスコスクールへの加盟前後からESDに関わるようになりました。そもそもは、ESDとして活動をしていた訳でなく、いち社会科教員として環境問題などのさまざまな社会課題をテーマに授業を実践していました。

その自らの実践をESDの観点から見ると、実はESDに関わる実践をしていたのだと感じます。



● 黒宮先生が日々大切にしていることを教えてください。 ●

授業等での心がけとして「世の中には面白いことが満ちている！」ということをお伝えしています。中学生にもなると人生を悲観的に捉えたり、試験・受験勉強など狭い世界にとらわれ、つつい学ぶということに抵抗感が生まれやすいつ時期です。しかし、知識や経験は、自分の身の回りや世界の出来事で見えなかったものを見えるようにすることができます。ま

た、知らないことで人を傷つけてしまうことを減らすこともできます。そうした視点から、授業内や日頃の生活では、生徒から「へ〜」「なるほど〜」という感情の動きを引き出そうとしています。そうした感情の動きが生まれた瞬間、子どもたちが見る世界が変わって見えるようになり、新しい発見が生み出されると思います。

● 黒宮先生の目指す未来はどのような未来ですか？ ●

● 将来どんな社会に生きていきたいですか。 ●

すべてのニュースが、心温かいニュースになっている未来。現在テレビやインターネットなどでは、どちらかというとマイナスなニュースが多くなっている傾向があります。私が考える未来は、そうしたマイナスのニュースが一切起らず、世界の人々の思いやりにあふれた

ニュースしかない未来がいいですね。学校という小さな世界でもいろいろな問題がありますが、みんなが笑顔で思いやりをもって協力し、勉強に運動に励む学校が理想であるように、世界全体がそうした温かく思いやりのある社会に生きていきたいです。

● 「サステナブルスクールの先生に会いに行こう！」を手にされるすべての方々にメッセージをお願いします。 ●

サステナブルスクールに関わる先生方は、道無き道を開拓して試行錯誤しているいろいろな取り組みを行っていることと思います。ゼロから物事を創り上げることは、本当に大変なことだと思います。その中で私の心がけていることは、先生も生徒と一緒に考えて、楽しむことを前提としています。先生が楽しそうに活動していれば、

生徒は絶対楽しいと感じてくれるはずですよ。名古屋国際中学校・高等学校の活動は、ほとんどが先生たちの趣味の世界かもしれません。持続可能な教育活動は、先生たちが持続可能でなくては成り立たないので、楽しんでやっていたらと思います。



ESD重点校形成事業開始の背景

国連持続可能な開発のための教育の10年（以下、国連ESDの10年）の最終年となる2014年11月に、日本政府とユネスコの共催により、愛知県名古屋市および岡山県岡山市において、「ESDに関するユネスコ世界会議」が開かれました。その会議において、国連ESDの10年の後継目標として「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」が発表され、同年第69回国連総会にて採択されました。ユネスコ主導の下、2015年から2019年までの5年間、ESDはこのGAPに基づいて推進されています。

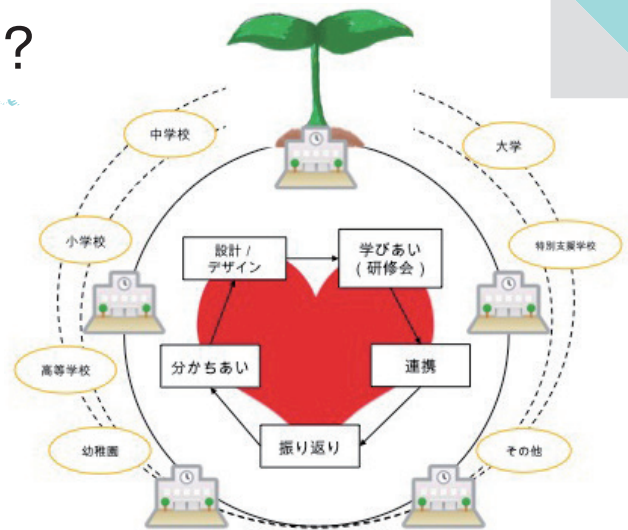
また、国内に目を向けると、日本ユネスコ国内委員会に設置されたESD特別分科会が「国連ESDの10年」の成果と課題を整理し、平成27年8月に「持続可能

な開発のための教育（ESD）の更なる推進に向けて」と題する報告書を取りまとめました。報告では、今後のESD推進方策として、ESD普及のための取組と並行してESDを深化させる（実践力を高める）ための取組の強化がうたわれています。学校全体で、また他校や地域との連携も視野に入れて活動を実践し、持続可能な未来の実現に向け、教育を通じて一人ひとりの変容していくことが期待されています。

このような経緯を受け、日本におけるユネスコスクール事務局である公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、文部科学省より「平成28年度日本／ユネスコパートナーシップ事業」の委託を受け、ESD重点校形成事業を実施することとなりました。

ESD重点校形成事業とは？

ESD重点校形成事業は、教育を通じて持続可能な社会を構築するために、実践的な取組を行う意欲のある学校を公募・選定し、その取組を発展および深化させるために必要な支援をする事業です。学びあい（研修会）→連携→振り返り→分かちあい→設計／デザインのサイクルを繰り返すことにより、重点校（以下、サステナブルスクール）に留まらず、ESDの活動を広げつなげていきます。



サステナブルスクール形成の目的

- 本事業の支援を受けて、サステナブルスクールが事業に関わるすべての人に学びをもたらす活動を展開し、自らの思考・行動の変容によって成長すること
- 他のサステナブルスクールの成果を本校の取組に生かし、サステナブルスクール同士も連携しながら多面的な魅力を持つ学校へ発展すること
- サステナブルスクールが本事業の支援を受けてESD

- 実践校として自立し、周辺の他の学校や地域・家庭を先導してESDの深化に寄与すること
- サステナブルスクールの寄与によりESDが教育現場そして地域社会に根付き、持続可能な社会を構築していくこと
- 加えて、その活動を世界へ向けて発信し、国際的に展開していくこと

関連資料のご紹介



「ひと目でわかる ESD 推進事業ガイド」(2017) (日・英)

本冊子は、ACCU がユネスコスクール事務局として実施するESD 推進事業を一冊にまとめたものです。ESD に対して十分な理解があり活動を深化していきたい方、ESD に関心はあるけれどもどのように活動をはじめたらよいか分からない方などESD に関わっている全ての方が活動を始める第一歩を踏み出すことができるようになる一冊となっています。

この一冊を通して、皆様に出会えることを楽しみにしております。

送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。



「キラリ発進！サステナブルスクールーホールスクールアプローチで描く未来の学校ー」(2017) (日)

本冊子は、平成28 年度日本/ユネスコパートナーシップ事業として文部科学省から委託を受け、2016 年9 月より始動したESD 重点校形成事業と2016 年11 月に開催した国際ワークショップの様子を記した一冊です。

日本では重点校（以下、サステナブルスクール）としてどのような学校が選ばれ、どのような活動をしているのか。国際的にサステナブルスクールとしてどうあるべきなのか。イギリスのアシュレー校校長のリチャード・ダン氏をお招きし、持続可能性の「哲学」を様々なバックグラウンドを持つ参加者と分かち合った様子も紹介しています。この一冊を通して、「新しい学び」を感じていただきその学びが全国に広がっていくことを心より願っています。

送料のみご負担いただければ、書籍の送付も可能です。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) について

ACCU は、ユネスコ(UNESCO,国際連合教育科学文化機関) から「アジア太平洋地域での文化の相互交流を促進する中核的センター」の設置を打診されたことを契機に、1971 年に日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって設立されました。設立以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連帯のうえに築かれるものである」という精神のもとに、日本を拠点にアジア・太平洋地域諸国の教育と文化の分野でユネスコや各国関係団体と協力して、人材の育成と相互交流を促進する事業を行っています。現在、文部科学省より委託を受け、ユネスコスクール事務局としてユネスコスクール加盟時、加盟後の支援をおこなっています。



問い合わせ先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484 東京都新宿区袋町6 (日本出版会館)

電話:03-3269-4559 Fax:03-3269-4510

E-mail: webmaster@accu.or.jp

ACCUホームページ: <http://www.accu.or.jp/jp/index.html>